

第3回 さくらえ地区小さな拠点推進協議会【10/6実施】 協議内容まとめ

事業目的

複数の公民館エリアの協働によって生活機能が維持・確保される仕組みをつくることで、住み続けられる地域を実現する。

事業推進体制

さくらえ地区小さな拠点推進協議会と江津市の協働により推進。市は庁内の連絡会議を設けて、情報交換、意見交換を行いながら、多角的に桜江地区の生活機能維持のための支援を行う。

事業実施の方向性（テーマ）

1. 地域防災体制構築事業 ～自主防災組織の連携で防災力強化～
2. 若年代の定住促進事業 ～空き家活用と地域ぐるみの教育環境づくり～
3. 高齢者の生活利便性向上事業 ～コミュニティ移動スーパー実証事業～

事業実施の方法

1. 推進協議会へ交付金を交付してソフト事業を推進
2. 拠点づくりのための空き店舗改修へ補助金を交付
3. UIターン者へ桜江地区独自の空き家改修補助金を交付
4. 川越防災拠点センター（仮称）建設に必要な財源の充当
※事業総額 1億5千万円



■協議事項と承認・確認内容

□地域防災体制構築事業について

- 今年度は、地区で防災体制を検討してもらうために県の防災リーダー研修への参加呼びかけを行う。
- 防災リーダーが、どのような役割を地域で担うのかを、避難時の地域コミュニティ組織と住民の動きを整理するなかで、そこで必要な防災リーダーを養成するための研修を検討する。
- 各地区で必要な備品等の購入について部会で検討する。
- 負担がだれかに偏らないような体制を考えていく。

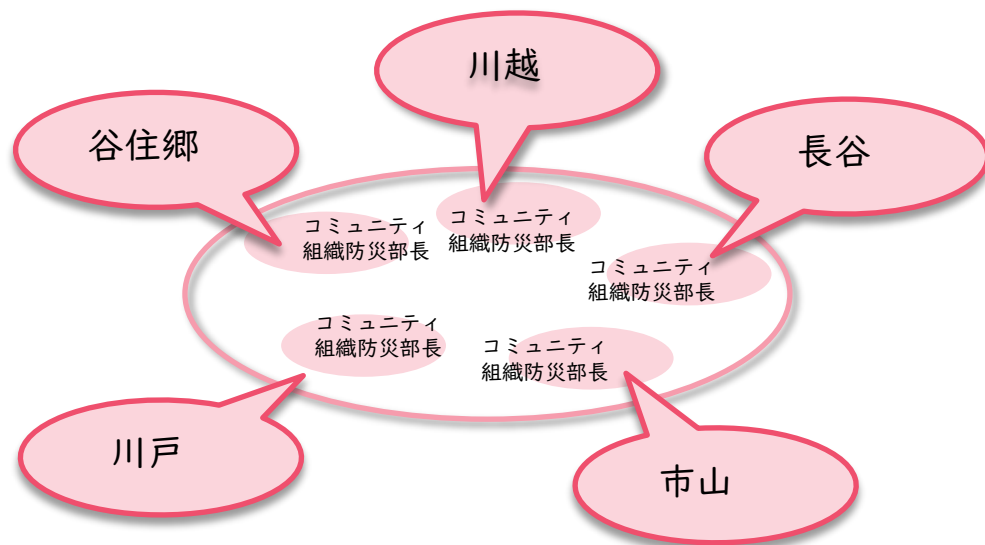
□拠点施設の改修について

- 12月中旬に「落成式」を行いたい。(10/6)
⇒内部の利用方法等が決まっていない部分もあるので、3月末ころに変更(10/12)
- 11月ころから順次改修工事に入る
- 工期中に、リノベーション(空き家再生)の体験を実施する。
⇒小中校生や親子で体験できるように
- コインランドリー、バス待合、高齢者の集いの場、健康づくりのスペース、子どもの学習環境を施設の機能としてもたせる。
- 法律の関係や融資の都合上、現時点の計画が替わる可能性もある。

□アンケートについて

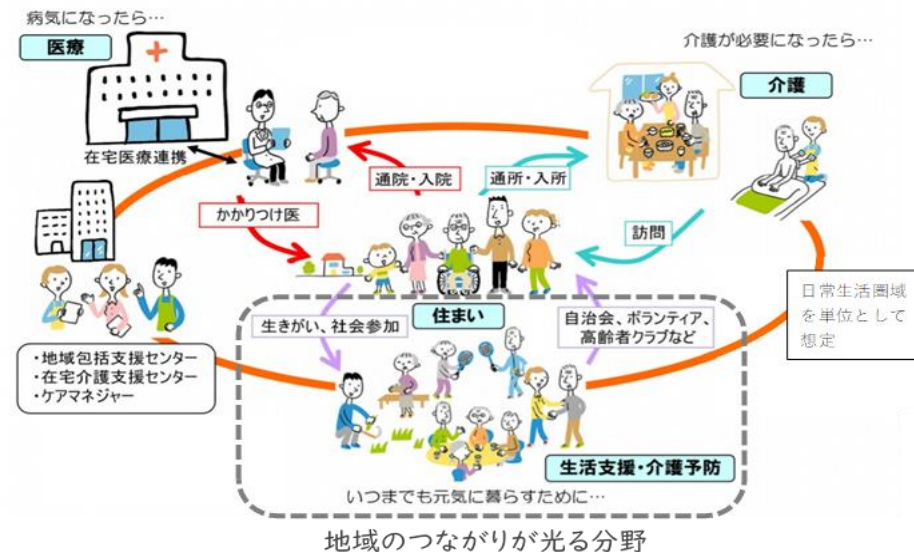
- 小さな拠点づくりモデル事業の成果を確認するためのアンケート調査を実施する。
- 桜江地区住民の生活機能に関する感じ方を、アンケートで収集して、生活機能を利用しようとする意識の変化を数値化したい。
- 各世帯への配布を行う。
- 小中学校へもアンケート調査を行う。その場合は、項目を検討しなおす。
- 11月中に実施したい。(10/6)
⇒アンケート項目は県と調整して実施、12月末を締切予定。

■防災部会の活動経過



日にち	内容	説明
7/1	交付金交付申請	防災体制構築事業交付申請
7/30	第1回防災部会	事業費の変更/備品の整備/防災リーダー
9/12	地元協議	防災ファシリテーターと協議 谷住郷 川戸 市山
9/13	地元協議	防災ファシリテーターと協議 川越 長谷
10/1	第2回防災部会	各地区の取り組み内容

■住みよい地域をつくる会 (高齢者の生活利便性向上の取組み)



日にち	内容	説明
7/29	社協説明・協議	小さな拠点モデル事業の説明と地域包括ケアの親和性について共有
8/17	関係者協議	地区推進協議会会長と生活支援コーディネーターで、小さな拠点・包括ケアの関係性を協議
9/9	関係者協議	桜江福祉会と小さな拠点・包括ケアの関係性の説明と協力を依頼
9/18	関係者協議	桜江地区民生委員の会で小さな拠点・包括ケアの関係性整理と協力関係を確認

■今後のながれ (10/6会議後の打ち合わせや調整により変更があります。)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地区推進協議会	第3回協議会		アンケート調査 第4回協議会	アンケート集計	第5回協議会	実績報告
防災体制構築	第2回部会	防災リーダー研修	地区避難訓練等	地区避難訓練等		
若者定住促進		拠点改修工事				拠点開所式
高齢者の生活利便性	随時情報収集				ニーズ把握	